

松阪市議会議長  
山本 芳敬 様

平成 30 年4月27日  
海住 恒幸  
西口 真理

## 研修報告書

研修会の名称 議員力研究会  
期日 平成 30 年4月14日(土) 13 時～17 時  
会場 那古野コミュニティセンター (名古屋市西区那古野、最寄駅:名古屋駅)  
参加者 海住恒幸、西口真理  
(そのほか、愛知県、岐阜県の市町村議員7人)

この研究会は、岐阜県多治見市の職員として総合計画の策定など行政実務(部長職)だけでなく、議会事務局長経験をお持ちの青山崇氏(自治体学会会員、東海自治体学会役員)を常任の講師として迎え、年度に4～5回、名古屋駅周辺で開催されているもので、東海、近畿の市町村から計 11 人の議員が参加している。毎回、あらかじめ指名のあった3人程度の議員が直近に行った一般質問等を持ち寄り事例発表する。それについて参加者で検証し、講師の青山氏からも意見が出される。次に、事前にメンバーから提案のあったテーマで各議員が自市町の実例を紹介し、意見交換し、議会改革と議員力の向上に努めている。

### 【内容】

#### 1. 事例発表

##### ① 安藤直美(恵那市)

・「市政への市民参加」

議会や市民に対し積極的な行政情報の公開を進め、納得できる説明が必要。

議案(予算・条例改正)についての情報は、議会直前の全員協議会で公表。重要な議案、予算は事前に「勉強会」として出席を促す等を提案。

##### ② 成瀬多可子(東浦町)

・「東浦町工場立地法に基づく町準則を定める条例」の修正案について

東浦町の事例報告と合わせて、修正案提出のタイミング、手順について、各議会での状況報告と課題を整理。

##### ③ 舟橋よしえ(日進市)

・「日進市国民健康保険税条例の一部改正」に対して

国・県が決めたことに対して、市町村がどう進めるかについて、着眼点をどこに持って審議するか。

## 2. 意見交換会

### テーマ 「委員会における資料提供について」

- ① まず、3月議会に提案された、国保・介護の条例改正議案について、各自治体でどういう資料提供がされたのかを確認する。(議会への資料提供のレベルを確認) この議案に関する説明資料・要求した資料など、各自治体の分を持参。
- ② 次に、一般的に、委員会として資料請求を行ったことがあるか? あるなら、どういう案件で、執行部側の対応はどうだったか? 各自治体の状況を報告。
- ③ 更に、請求の前に、そもそも、執行部側が、議案に対する説明資料をどういう形で行っているのか? 全協での説明のみ? 配布資料があるなら、その資料を持参。
- ④ 議論としては、理想的な資料の提供のシクミというのは、どの程度なのか? また、そのために、議会として何を求めていくのか、といった問題意識で意見交換。



各自治体の平成30年度一般会計予算書、説明資料も持ち寄り、比較検討。

(ペーパーレスでタブレットになっている自治体も一つあり)

予算書の見易さ、どの段階でどの程度の説明がされているか等、自治体、議会のレベルが分かる。審議段階までの情報の確保が重要である。

### 【所感】

異なる県の自治体の議員の報告を聞いていると、たとえば、恵那市(岐阜県)において現在進行形で取り組まれている「市政への市民参加」というテーマは、一度は通ってきた課題ではあるが、自治体により異なる進化と後退と挫折をへてすでに“過去”のことにようにその後は取り組まないまま放置してしまっている今の自分へのアンチテーゼのように聞こえ、議員活動にマンネリはあってはならないことを教えられる。一方で、市長が「毎月全員協議会を行います」と言うことに対しては「それは違うだろう、

議会が開くものだ」という思いと、カタチはどうであれ、執行部が議会と情報共有することに積極的になることは、ないよりはましだという気持ちの両面がある。いずれにしても、全協は、より能動的に活用できるよう、議会としては知恵を働かせるべきだ。

東浦町(愛知県)の執行部提案の条例審査において常任委員会が賛成ゼロで否決されたが、討論がなかったため、否決理由がわからないままとなっている。その後、定例会最終日の本会議に議員発議の修正案が提出され、全会一致で可決したということだった。執行部の条例案の趣旨はそのまま生かし、一部、字句を追加する程度の修正だった。それなら、原案を修正すべく委員間討議を重ねることで、論点をオープンにし、委員会の総意として修正案を成立させ、委員会としてなぜ原案を否決し修正案を可決したかを委員長報告するように持っていくことが委員会としてとり得る責任でなかったか。

日進市(愛知県)の国保広域化の事例は、従来、市の独自政策で法定外繰り入れで国保税を低く抑えてきた自治体が、広域化によって独自政策ができなくなる現実に直面した議員のジレンマを見る思いだ。

さまざまな地域の議員の生の報告を聞いて、かつて自分も同じテーマに取り組みながら放置してしまっていることにこれではいけないと反省したり、自分では気づかなかった課題に果敢に取り組んで見える議員に敬意を表したり、さまざま刺激を受ける貴重な4時間だった。(以上)